

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
東京メディカル・スポーツ専門学校		平成30年8月1日		関口 正雄		〒 134-0088 (住所) 東京都江戸川区西葛西3-1-16 (電話) 03-5605-2930		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人 滋慶学園		昭和58年12月23日		浮舟 邦彦		〒 134-0084 (住所) 東京都江戸川区東葛西6-16-2 (電話) 03-5878-3311		
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度	
医療	医療専門課程		鍼灸師科（午後コース）		平成28(2016)年度	-	平成29(2017)年度	
学科の目的		健康社会の実現・スポーツ文化の発展に貢献する医療従事者(鍼灸師)としての知識・技術・マインドを持ち、変化する社会に対応できる鍼灸師を養成する。						
学科の特徴（主な教育内容、取得可能な資格等）		①はり師・きゅう師国家資格取得を目指す。②鍼灸治療だけでなく健康指導ができる知識・技術を身につける。③社会変化に対応するための思考力・創造力を身につける。						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
3	年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	単位時間 94 単位	単位時間 75 単位	単位時間 0 単位	単位時間 15 単位	単位時間 0 単位
		単位時間 4 単位						
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数（生徒実員の内数）(B)		留学生割合(B/A)	中退率			
90	86 人	0 人		0 %	4 %			
就職等の状況	■卒業者数 (C) 16 人							
	■就職希望者数 (D) 14 人							
	■就職者数 (E) 14 人							
	■地元就職者数 (F) 11 人							
	■就職率 (E/D) 100% %							
	■就職者に占める地元就職者の割合 (F/E) 79% %							
	■卒業者に占める就職者の割合 (E/C) 88% %							
	■進学者数 14 人							
	■その他							
	国試不合格による内定辞退 卒業のみを希望 (令和6年度卒業生に関する令和6年5月1日時点の情報)							
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価：有							
	※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体：一般社団法人柔道整復教育評価機構 受審年月：2024/3/31 評価結果を掲載したホームページURL https://www.tokyo-medical.ac.jp/about/information/							
当該学科の ホームページ URL	https://www.tokyo-medical.ac.jp/course/sinkyu-study/							
企業等と連携した実習等の 実施状況（A、Bいずれかに記入）	(A：単位時間による算定)							
	総授業時数				単位時間			
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				単位時間			
	うち企業等と連携した演習の授業時数				単位時間			
	うち必修授業時数				単位時間			
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				単位時間			
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				単位時間			
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				単位時間			
	(B：単位数による算定)							
	総単位数				94 単位			
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数				4 単位			
	うち企業等と連携した演習の単位数				0 単位			
	うち必修単位数				4 単位			
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数				4 単位			
	うち企業等と連携した必修の演習の単位数				0 単位			
	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)				0 単位			
教員の属性（専任教員について記入）	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者				(専修学校設置基準第41条第1項第1号)		11 人	
	② 学士の学位を有する者等				(専修学校設置基準第41条第1項第2号)		0 人	
	③ 高等学校教諭等経験者				(専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0 人	
	④ 修士の学位又は専門職学位				(専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0 人	
	⑤ その他				(専修学校設置基準第41条第1項第5号)		0 人	
	計						11 人	
	上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数						11 人	

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
企業・業界の求める知識・技術が教育課程に反映されるように業界の動向に関して情報交換を行い、教育課程の改善および改定を定期的に実施することを目的とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
本校の教育課程編成委員会は理事会のもと設置され(添付教育課程編成委員会規定参照)、委員会の適切な運営は理事長が担保することになっている。また学校運営においては教務組織規定において、「委員会での審議を通じて示された企業等の要請その他の情報、意見を十分に生かし、実践的かつ専門的な職業教育を実施するにふさわしい教育課程の編成に努める」ことが明記され、この定めに従い、委員会を運営している。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年5月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
古島 昭博	滋慶学園 常務理事	2025年4月1日～2027年3月31日	
関口 正雄	東京メディカル・スポーツ専門学校 学校長	2025年4月1日～2027年3月31日	
藤本 拓也	東京メディカル・スポーツ専門学校 事務局長	2025年4月1日～2027年3月31日	
西田 茂男	東京メディカル・スポーツ専門学校 教務部長	2025年4月1日～2027年3月31日	
進藤 千聖	東京メディカル・スポーツ専門学校 鍼灸師科学科長	2025年4月1日～2027年3月31日	
櫻庭 陽	国立大学法人 筑波技術大学 保健科学部附属東西医学統合医療センター	2025年4月1日～2027年3月31日	①②
古屋 英治	一般社団法人日本東洋医学会医療安全委員会 公益社団法人全日本鍼灸学会スポーツ鍼灸委員会	2025年4月1日～2027年3月31日	①②
引網 善久	株式会社Lehua	2025年4月1日～2027年3月31日	③

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。)
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (7月、11月)

(開催日時(実績))

第1回 2024年7月1日 13:00～15:00

第2回 2024年11月5日 13:00～15:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

- 国家試験合格率低迷化に関して、学園統一模試のみではなく母集団および個人の成績分析を詳細にし、学内における模擬試験を実施する。
- スポーツトレーナーの基礎的な学びについてカリキュラムフローが定着しつつある。知識・技術の表出機会としてスポーツイベントや地域イベントへの出展を行う。
- スポーツ現場で求められる要素(知識・技術)に関して実際のプロスポーツチームにて業務を行っていた教員に協力を仰ぎ、1年次～2年次の2か年のフロー教育を構築し実施。
- スポーツ分野だけではなく、多様性を加味したカリキュラムの構築。美容、フェムケア、高齢者の機能訓練など各年代における身体の機能を理解し鍼灸治療の方法を学ぶコースを新設し実施する。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係				
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針				
養成目的である「自らキャリア開発ができる鍼灸師の育成」を実現するため、多様な専門分野の企業等と連携し実践的な実習・演習を推進する。学生のキャリアパスの多様性を確保するとともに、現場で求められる実践的思考力を養い、社会のニーズに的確に応える人材を育成する。				
(2)実習・演習等における企業等との連携内容				
※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記				
実習指導者は、本校で行う臨床実習指導者講習会を受講し、終了後東京都に申請し修了認定を受けた者のみ指導を行うことができる。さらに臨床実習を行う前に臨床実習指導者会議を行い、学校が考える実習の到達目標・実習方針等を確認し伝えている。実習中学生は、デイリーノートを毎日記入し、指導者に提出しコメントをいただいている。また実習期間中に本校専任教員が訪問し、学生に面談するとともに、指導者にヒヤリングを行い、改善などあればその場で学生に伝える。実習終了後は、評価表、出欠表を学校に提出いただきデイリーノートとともに総合的な判断し最終評価を行う。				
(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。				
科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等	
臨床実習Ⅰ	臨床実習指導	実際の現場で実習を行ない、患者や選手とのコミュニケーションを行なうことを目的とする。見学実習を中心に、スポーツ施設・イベント、他の医療機関などを含め、鍼灸治療がどのように行われているかを学習する。	ムーブアクション(株)・ひらいはりきゅう院・たまプラザ鍼灸院・ユウ鍼灸マッサージ院・あさひろ鍼灸院・三宅鍼灸マッサージ療院・レファうめじま鍼灸院※他治療院43施設	
臨床実習Ⅱ	臨床実習指導	臨床実習Ⅰに引き続き、実際の現場で実習を行ない、施術補助を行なうことを目的とする。付属鍼灸院や外部の鍼灸院を中心に鍼灸治療を実践的に学習する。鍼灸治療を目の前で学び、また、補助に入ることによって治療の流れ、患者対応を実践的に学んでいく。	ムーブアクション(株)・ひらいはりきゅう院・たまプラザ鍼灸院・ユウ鍼灸マッサージ院・あさひろ鍼灸院・三宅鍼灸マッサージ療院・レファうめじま鍼灸院※他治療院43施設	
社会あはき学Ⅱ	授業講師	「鍼灸の未来に自分なら何ができるか?」という問いを起点に新たな事業創造に挑戦する実践演習。鍼灸院・接骨院の経営者たちとの連携を通じて既成概念にとらわれない事業アイデアを検討する。市場分析、実現可能な事業計画の策定、投資家や審査員を説得するプレゼンテーション技術まで体系的に習得する。	Therapist Camp	
総合学習	授業講師	医療・福祉分野の「酒井医療株式会社」、ものづくり分野の「株式会社BANE」と連携し、実社会の課題を探究します。この実践的な学びを通して、学生の主体的なキャリア設計能力と、社会に貢献し未来を切り拓く力を育むことを目的とする。	株式会社BANE 酒井医療株式会社 株式会社BeWing	
臨床はりきゅう実技	授業講師	美容鍼灸や物理療法の企業との連携を通じて、臨床現場で求められる幅広い技術や知識に触れる機会を提供する。実際の施術技術や最新の機器・製品に関する理解を深めるとともに、鍼灸にとどまらない多角的なアプローチを学び、臨床家としての視野と応用力を養う。	酒井医療株式会社 HALII TOKYO	

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 学園の定める教職員規定において、教員の授業内容・教育技法の改善並びにクラス運営方法向上、マネジメント能力を含む指導力の向上と専攻分野の実務知識を含む授業力の向上を目的としています。専攻分野における実務に関する教員研修をFD(ファカルティ・デベロップメント)活動と位置づけ、年一回の研修への参加を推進している。		
(2)研修等の実績		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	公益社団法人東洋療法学校協会 第47回教員研修会	連携企業等: 東洋療法学校協会
期間:	2024年8月8日～9日	対象: 学科職員全員
内容	不易流行 デジタル化が教育現場で多用される時代に感性を見つめ直す	
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	公益社団法人東洋療法学校協会 第47回教員研修会	連携企業等: 東洋療法学校協会
期間:	2024年8月8日～9日	対象: 学科職員全員
内容	不易流行 デジタル化が教育現場で多用される時代に感性を見つめ直す	
(3)研修等の計画		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	公益社団法人東洋療法学校協会 第48回教員研修会	連携企業等: 東洋療法学校協会
期間:	2025年8月7日～8日	対象: 学科職員全員
内容	変化する社会とスポーツの力～現場と鍼灸教育の連携による次世代への架け橋～	
研修名:	第74回(公社)全日本鍼灸学会学術大会 名古屋大会	連携企業等: 全日本鍼灸学会
期間:	2025年5月30日～6月1日	対象: 発表者、推薦者
内容	女性のみかたⅡーフェムテックによる女性のWell-beingに貢献する鍼灸ー	
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	公益社団法人東洋療法学校協会 第48回教員研修会	連携企業等: 東洋療法学校協会
期間:	2025年8月7日～8日	対象: 学科職員全員
内容	変化する社会とスポーツの力～現場と鍼灸教育の連携による次世代への架け橋～	

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

評価委員会は、自己点検・評価結果の客観性・透明性を高め、学校の利害関係者の学校運営の理解促進や連携協力による学校運営の改善を目的とし、自己点検・評価の結果は学校法人滋慶学園情報公開規定に基づき学校内外に開示するものとする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目標・育成人材像
(2)学校運営	運営方針・事業計画・運営組織・人事・給与制度・意思決定システム
(3)教育活動	目標設定・教育方法・評価等・成績評価・単位認定等・資格・免許取得の指導体制他
(4)学修成果	就職率・資格・免許の取得率・卒業生の社会的評価
(5)学生支援	就職等進路・中途退学への対応・学生相談・学生生活・保護者との連携・卒業生・社会人
(6)教育環境	施設・設備等・学外実習・インターシップ等・防災・安全管理
(7)学生の受入れ募集	学生募集活動・入学選考・学納金
(8)財務	財務基盤・予算・収支計画・監査・財務情報の公開
(9)法令等の遵守	関係法令・設置基準等の遵守・個人情報保護・学校評価・教育情報の公開
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献・ボランティア活動
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

委員からは、「昔も今も教育の根本は大きく変わっていない」「今が特別に悪いわけではなく、時代ごとの環境変化がある」との見解が示されました。また、現代の若い世代をいかにマネジメントし、伸ばしていくかが重要であるとの認識が共有されました。特に、新入職員歓迎会の事例を挙げ、「価値観の違い」を乗り越えて人としての声かけや優しさの重要性を伝えることの必要性が強調されました。「スポーツで売り出している」ことの意義については、スポーツ選手を見る際に個別評価が非常に重要であるとし、その視点が医療分野にも応用できることが述べられました。東京メディカルの学生は「スポーツ関係の学生は明るい」「お年寄りにも受けが良い」「コミュニケーション能力も決して悪くない」との評価があり、現行の計画に沿って進めていくことが肯定的に評価されました。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和7年5月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
牛込 公一	一般社団法人日本パラフェンシング協会	2025年4月1日～2027年3月31日(2年)	卒業生
和田 清香	在籍者保護者	2025年4月1日～2026年3月31日(1年)	保護者
鈴木 隆英	成田高等学校 学校長	2025年4月1日～2027年3月31日(2年)	高等学校
沼倉 英里	行船管理有限会社	2025年4月1日～2027年3月31日(2年)	地域
藤野 浩一郎	一般社団法人TMG本部	2025年4月1日～2027年3月31日(2年)	業界関係
高井 豊	社会医療法人社団森山医会	2025年4月1日～2027年3月31日(2年)	業界関係
石井 哲平	ムーヴアクション株式会社 代表取締役	2025年4月1日～2027年3月31日(2年)	業界関係

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

公表時期: 2025年6月30日

公表時期: 2025年6月30日

授業科目等の概要(2024年度生以前)

	(医療専門課程 鍼灸師科(午後コース))															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			基礎演習	読解とプレゼンテーションを学ぶ。	1	30	2	○			○		○		
2	○			コミュニケーションスキルⅠ	コミュニケーションの基礎を学ぶ。	1	30	2	○			○		○		○
3	○			コミュニケーションスキルⅡ	おもてなしについて学ぶ。	1	30	2	○			○		○		
4	○			保健体育Ⅰ	テーピングの基礎を学ぶ。	1	60	4	○			○			○	
5	○			保健体育Ⅱ	身体の運動について学ぶ。(放送大学)	1	30	2	○			○			○	
6	○			栄養学	栄養学の基礎を学ぶ。(放送大学)	1	30	2	○			○			○	
7	○			解剖学Ⅰ	人体構造の基礎について学ぶ。	1	60	2	○			○			○	
8	○			解剖学Ⅱ	人体構造の基礎について学ぶ。	1	60	2	○			○			○	
9	○			解剖学Ⅲ	人体構造の基礎について学ぶ。	3	30	1	○			○		○		
10	○			生理学Ⅰ	人体機能を詳細に学ぶ。	1	90	3	○			○		○	○	
11	○			生理学Ⅱ	人体機能を詳細に学ぶ。	2	30	1	○			○		○		
12	○			生理学Ⅲ	人体機能を詳細に学ぶ。	3	30	1	○			○		○		
13	○			解剖生理学	神経・感覚器系について学ぶ。	2	30	1	○			○		○		
14	○			運動学	運動学の基礎を学ぶ。	2	30	1	○			○			○	○
15	○			衛生学・公衆衛生学	健康の保持、予防医学の重要性を認めさせ衛生・公衆衛生の分野について学ぶ。	1	60	2	○			○			○	
16	○			病理学概論	疾病・循環・病変・炎症について学ぶ。	2	60	2	○			○			○	
17	○			臨床医学総論	診断学について学ぶ。	2	60	2	○			○			○	
18	○			臨床医学各論Ⅰ	感染症・消化管疾患・肝・脾疾患・呼吸器疾患・内分泌疾患について学ぶ。	2	60	2	○			○		○	○	
19	○			臨床医学各論Ⅱ	整形外科疾患・血液・造血器疾患・リュウマチ疾患・その他の領域について学ぶ。	3	60	2	○			○		○	○	
20	○			リハビリテーション医学Ⅰ	リハビリテーションの基礎を学ぶ。	2	30	1	○			○			○	
21	○			リハビリテーション医学Ⅱ	リハビリテーションの各論について学ぶ。	3	30	1	○			○			○	
22	○			医療概論	医学の成り立ちについて学ぶ。	1	30	1	○			○		○	○	
23	○			関係法規	あはきおよび医療の法規について学ぶ。	3	30	1	○			○			○	
24	○			保険の仕組と職業倫理(集中)	保険の仕組と職業倫理について学ぶ。	2	15	1	○			○		○		
25	○			経絡経穴概論Ⅰ	経絡経穴の意義・流注・取穴法について学ぶ。	1	60	2	○			○			○	
26	○			経絡経穴概論Ⅱ	経絡経穴の意義・流注・取穴法について学ぶ。	2	30	1	○			○		○		
27	○			東洋医学概論Ⅰ	東洋医学の基礎を学ぶ。	1	90	3	○			○			○	

28	○		東洋医学概論Ⅱ	東洋医学の基礎を学ぶ。	2	30	1	○			○		○		
29	○		東洋医学特論	東洋医学を詳細に学ぶ。	3	30	1	○			○		○		
30	○		基礎はり学・基礎きゅう学	はり術、きゅう術の基礎を学ぶ。	1	30	1	○			○		○		
31	○		はりきゅう治効理論	はりきゅうの治効理論について学ぶ。	2	30	1	○			○		○		
32	○		東洋医学臨床論Ⅰ	東洋医学的な治療各論、鍼灸治療について学ぶ。	2	60	2	○			○		○		
33	○		東洋医学臨床論Ⅱ	治療各論・スポーツ医学における鍼灸治療について学ぶ。	3	60	2	○			○		○	○	
34	○		東洋医学臨床実践	東洋医学を応用し中医学を中心に学ぶ。	3	60	2	△	○		○			○	
35	○		特殊鍼灸療法学	特殊な鍼灸治療について学ぶ。	3	30	1	△	○		○			○	
36	○		古典・経絡治療学(集中)	日本の伝統鍼灸を学ぶ。	3	30	1	△	○		○			○	
37	○		病態生理学(集中)	疾病における鑑別を学ぶ。	3	30	1	○			○			○	
38	○		触擦解剖Ⅰ(集中)	身体のランドマークを学ぶ。	1	30	1	△	○		○		○		
39	○		触擦解剖Ⅱ(集中)	身体観察よりはりきゅう応用につなげる。	2	30	1	△	○		○		○		
40	○		はきの適応診断学	鍼灸臨床における鑑別診断を学ぶ。	3	30	1	○			○		○	○	
41	○		社会あはき学Ⅰ	現代社会における鍼灸師の役割を学ぶ。	1	30	1	○			○		○		
42	○		社会あはき学Ⅱ	現代社会における鍼灸師の役割を学ぶ。	2	30	1	○			○		○		
43	○		基礎はり実技	施術上の注意、はりの基礎技術について学ぶ。	1	60	2				○	○		○	
44	○		基礎きゅう実技	施術上の注意、きゅうの基礎技術について学ぶ。	1	60	2				○	○		○	
45	○		応用はり実技	各疾病の病態生理を理解し、はり実技について学ぶ。	2	60	2				○	○		○	
46	○		応用はりきゅう実技	様々なきゅう施術を学ぶ。	2	60	2				○	○		○	
47	○		認定実技(OSCE)Ⅰ(集中)	臨床実習に向けて必要な知識技術を学ぶ。	2	30	1				○	○		○	
48	○		認定実技(OSCE)Ⅱ	鍼灸臨床における技術を学ぶ。	3	30	1				○	○		○	
49	○		臨床はりきゅう実技	エビデンスを基にした鍼灸治療について学ぶ。	3	60	2				○	○		○	
50	○		スポーツ鍼灸	スポーツ傷害と鍼灸治療について学ぶ。	3	60	2				○	○		○	
51	○		実践はりきゅう実技	患者を想定した実践的な実技を学ぶ。	3	30	1				○	○		○	
52	○		臨床実習Ⅰ	施設で臨床実習を行なう。	2	90	2				○	○	○	○	○
53	○		臨床実習Ⅱ	施設で臨床実習を行なう。	3	90	2				○	○	○	○	○
54	○		総合基礎(集中)	座学・実技の内容を総合的に学ぶ。	1	30	1		○		○		○		
55	○		総合学習(集中)	座学・実技の内容を総合的に学ぶ。	2	60	2		○		○		○		
56	○		総合スポーツ演習Ⅰ	鍼灸師に必要なスポーツ傷害を総合的に学ぶ。	2	60	2		○		○		○	○	
57	○		総合スポーツ演習Ⅱ(集中)	鍼灸師に必要なスポーツ傷害を総合的に学ぶ。	3	30	1		○		○		○	○	

58	○			総合基礎特講	総合的に基礎科目について学び鍼灸臨床と結びつける。	3	60	2		○		○		○		
59	○			総合臨床特講	総合的に臨床科目について学び鍼灸臨床と結びつける。	3	30	1		○		○		○		
60	○			卒業演習(集中)	座学・実技の内容を総合的に学ぶ。	3	30	1		○		○		○		
合計					60 科目	2655 単位時間(94単位)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業時までに全科目の履修単位を取得して卒業判定会議に合格し、学校 卒業要件：長が適当と認めた者が卒業となる。ただし、柔道整復師科、鍼灸師科に関しては、実技認定試験(認定実技審査)の合格も要件とする。		1学年の学期区分	1 期
履修方法：出席時間数が70%以上で、各科の評価試験を行う		1学期の授業期間	30 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要(2025年度生)

(医療専門課程 鍼灸師科(午後コース))

	(医療専門課程 鍼灸師科(午後コース))															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			基礎演習	読解とプレゼンテーションを学ぶ。	1	30	2	○			○			○	
2	○			コミュニケーションスキルⅠ	コミュニケーションの基礎を学ぶ。	1	30	2	○			○		○		○
3	○			コミュニケーションスキルⅡ	おもてなしについて学ぶ。	1	30	2	○			○			○	
4	○			保健体育Ⅰ	テーピングの基礎を学ぶ。	1	60	4	○			○			○	
5	○			保健体育Ⅱ (放送大学)	身体の運動について学ぶ。(放送大学)	1	30	2	○			○			○	
6	○			栄養学(放送大学)	栄養学の基礎を学ぶ。(放送大学)	1	30	2	○			○		○		
7	○			解剖学Ⅰ	人体構造の基礎について学ぶ。	1	60	2	○			○			○	
8	○			解剖学Ⅱ	人体構造の基礎について学ぶ。	1	60	2	○			○			○	
9	○			解剖学Ⅲ	人体構造の基礎について学ぶ。	3	30	1	○			○			○	
10	○			生理学Ⅰ	人体機能を詳細に学ぶ。	1	90	3	○			○			○	
11	○			生理学Ⅱ	人体機能を詳細に学ぶ。	2	30	1	○			○			○	
12	○			生理学Ⅲ	人体機能を詳細に学ぶ。	3	30	1	○			○			○	
13	○			解剖生理学Ⅰ	人体の機能と構造を包括的に学ぶ。	1	15	1	○			○		○		
14	○			解剖生理学Ⅱ	人体の機能と構造を包括的に学ぶ。	2	30	1	○			○			○	
15	○			運動学	運動学の基礎を学ぶ。	2	30	1	○			○			○	
16	○			衛生学・公衆衛生学	健康の保持、予防医学の重要性を認めさせ衛生・公衆衛生の分野について学ぶ。	1	60	2	○			○			○	
17	○			病理学概論	疾病・循環・病変・炎症について学ぶ。	2	60	2	○			○			○	
18	○			臨床医学総論	診断学について学ぶ。	2	60	2	○			○			○	
19	○			臨床医学各論Ⅰ	感染症・消化管疾患・肝・膵疾患・呼吸器疾患・内分泌疾患について学ぶ。	2	60	2	○			○		○		
20	○			臨床医学各論Ⅱ	整形外科疾患・血液・造血器疾患・リュウマチ疾患・その他の領域について学ぶ。	3	60	2	○			○		○		
21	○			リハビリテーション医学Ⅰ	リハビリテーションの基礎を学ぶ。	2	30	1	○			○			○	
22	○			リハビリテーション医学Ⅱ	リハビリテーションの各論について学ぶ。	3	30	1	○			○		○		
23	○			医療概論	医学の成り立ちについて学ぶ。	1	30	1	○			○			○	
24	○			関係法規	あはきおよび医療の法規について学ぶ。	3	15	1	○			○		○		

25	○		保険の仕組みと職業倫理	保険の仕組みと職業倫理について学ぶ。	2	15	1	○			○		○		
26	○		経絡経穴概論Ⅰ	経絡経穴の意義・流注・取穴法について学ぶ。	1	60	2	○			○		○		
27	○		経絡経穴概論Ⅱ	経絡経穴の意義・流注・取穴法について学ぶ。	2	15	1	○			○			○	
28	○		東洋医学概論Ⅰ	東洋医学の基礎を学ぶ。	1	90	3	○			○		○		
29	○		東洋医学概論Ⅱ	東洋医学の基礎を学ぶ。	2	30	1	○			○			○	
30	○		東洋医学特論	東洋医学を詳細に学ぶ。	3	30	1	○			○			○	
31	○		基礎はり学・基礎きゅう学	はり術、きゅう術の基礎を学ぶ。	1	30	1	○			○		○		
32	○		はりきゅう治効理論	はりきゅうの治効理論について学ぶ。	2	30	1	○			○		○		
33	○		東洋医学臨床論Ⅰ	東洋医学的な治療各論、鍼灸治療について学ぶ。	2	60	2	○			○		○		
34	○		東洋医学臨床論Ⅱ	治療各論・スポーツ医学における鍼灸治療について学ぶ。	3	60	2	○			○		○		
35	○		東洋医学臨床実践	東洋医学を応用し中医学を中心に学ぶ。	3	60	2	○			○		○		
36	○		特殊鍼灸療法学	特殊な鍼灸治療について学ぶ。	3	30	1	○			○		○		
37	○		古典・経絡治療学	日本の伝統鍼灸を学ぶ。	3	30	1	○			○		○		
38	○		病態生理学	疾病における鑑別を学ぶ。	2	30	1	○			○		○		
39	○		触擦解剖学	身体のランドマークを学ぶ。	1	30	1	○			○		○		
40	○		検査測定学	身体計測方法を学ぶ。	2	30	1	○			○		○		
41	○		はきの適応判断学	鍼灸臨床における鑑別診断を学ぶ。	3	15	1	○			○			○	
42	○		社会あはき学Ⅰ	現代社会における鍼灸師の役割を学ぶ。	1	15	1	○			○			○	
43	○		社会あはき学Ⅱ	現代社会における鍼灸師の役割を学ぶ。	2	30	1	○			○			○	
44	○		基礎はり実技	施術上の注意、はりの基礎技術について学ぶ。	1	60	2				○	○			○
45	○		応用はり実技	施術上の注意、きゅうの基礎技術について学ぶ。	2	60	2				○	○		○	
46	○		基礎きゅう実技	各疾病の病態生理を理解し、はり実技について学ぶ。	1	60	2				○	○		○	
47	○		応用はりきゅう実技	様々なきゅう施術を学ぶ。	2	60	2				○	○			○
48	○		認定実技(OSCE)Ⅰ	臨床実習に向けて必要な知識技術を学ぶ。	1	30	1				○	○			○
49	○		認定実技(OSCE)Ⅱ	臨床実習に向けて必要な知識技術を学ぶ。	2	30	1				○	○		○	
50	○		認定実技(OSCE)Ⅲ	鍼灸臨床における技術を学ぶ。	3	60	2				○	○		○	
51	○		臨床はりきゅう実技	エビデンスを基にした鍼灸治療について学ぶ。	3	60	2				○	○	○	○	○
52	○		スポーツ鍼灸	スポーツ傷害と鍼灸治療について学ぶ。	3	60	2				○	○	○	○	○

53	○		実践はりきゅう実技	患者を想定した実践的な実技を学ぶ。	3	30	1		○								
54	○		臨床実習Ⅰ	施設で臨床実習を行なう。	2	90	2		○								○
55	○		臨床実習Ⅱ	施設で臨床実習を行なう。	3	90	2		○								○
56	○		総合学習	座学・実技の内容を総合的に学ぶ。	2	60	2		○								○
57	○		総合スポーツ演習Ⅰ	鍼灸師に必要なスポーツ傷害を総合的に学ぶ。	2	60	2		○								
58	○		演習Ⅱ	鍼灸師に必要なスポーツ傷害を総合的に学ぶ。	3	30	1		○								
59	○		総合基礎特講Ⅰ	総合的に基礎科目について学び鍼灸臨床と結びつける。	3	30	1	○									
60	○		総合基礎特講Ⅱ	総合的に基礎科目について学び鍼灸臨床と結びつける。	3	30	1	○									
61	○		総合臨床特講Ⅰ	総合的に臨床科目について学び鍼灸臨床と結びつける。	3	30	1	○									
62	○		総合臨床特講Ⅱ	総合的に臨床科目について学び鍼灸臨床と結びつける。	3	30	1	○									
63	○		卒業演習	座学・実技の内容を総合的に学ぶ。	3	60	2	○									
合計					63 科目				2700 単位時間(98単位)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件: 卒業時まで全科目の履修単位を取得して卒業判定会議に合格し、学校長が適当と認めた者が卒業となる。ただし、柔道整復師科、鍼灸師科に関しては、実技認定試験(認定実技審査)の合格も要件とする。		1学年の学期区分	1 期
履修方法: 出席時間数が70%以上で、各科の評価試験を行う		1学期の授業期間	30 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。